

平成30年11月1日
(2018年)

保護者 様

和歌山市立岡崎小学校
校長 岩本浩志

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組のお知らせ

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。平素は本校の教育活動に、ご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度4月に行われました全国学力・学習状況調査結果の概要につきましてのご説明と、それを踏まえた今後の学校の取組についてお知らせいたします。

調査内容

実施日：平成30年4月17日(火) 実施対象：6年生 4学級 82名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されました。**国語A・算数A**では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、**国語B・算数B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されました。**理科**では知識と活用を一体的に出題されまし

教科調査の結果分析よ

《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

国語科は、A問題は、県平均と比べ5ポイント下回る結果となりました。B問題は、全国、県、市の平均点と変わらない結果となっています。無解答率では、A問題が高く、B問題が低い結果が出ています。

本校としては、漢字や文法といった内容の定着に課題が見られました。しかし、自分の考えをもったり、書いたりする学習の成果が、B問題の結果につながっていると考えます。

以下、正答率の低かった設問を中心に、課題を挙げます。

■課題① 読み取る能力

話を聞き合う力は、授業中の様子からも向上していることがわかります。しかし、自分で文章をしっかりと読んで、人の気持ちを汲み取ったり、意図を理解したりする能力に課題が見られます。

■課題② 条件を用いて書く能力

国語の授業だけでなく、自分の考えを書くことや、振り返り等、書く活動を多く取り入れています。自分の考えや思いを書く力についてはついてきているように思われますが、目的にあった文章を書いたり、必要な条件に沿った内容を整理してまとめる力に課題が見られます。

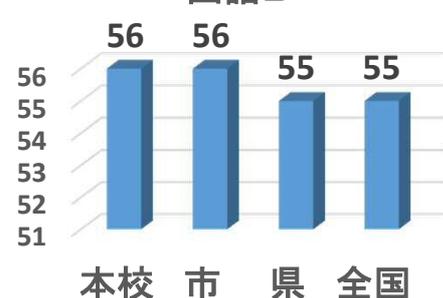
■課題③ 漢字や敬語を正しく用いる能力

漢字は日々の宿題等で、繰り返し学習していますが、その漢字を書くことができても、文章や意味に応じて正しい漢字を使うことができないように思います。敬語も同じですが、学習したことを、普段から書いたり使ったりする機会を増やし、理解を定着させるこ

国語A



国語B



《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

算数科は、A・B問題共、全国平均と比べ約5ポイント程度下回る結果となりました。

普段の授業で、一人で考えたり友達と話し合ったりすることで、学習内容を理解し、「わかった。」「できた。」といった事を大切にしています。ただそれが、自分で読み、問題を理解し、知識を活用して問題を解いていくことに課題が見られる結果となりました。

■課題① 数や数量関係の理解

A問題では、長さや重さの関係や円の直径と円周の関係性、また、B問題では、投げる回数と時間の関係等の問題の正答率が低くなっています。一方が変化すると、もう一方がどのように変化していくのか、相互の関係を考えながら思考していくことに課題が見られます。

■課題② 順序立てて考える能力

「聞かれていることはどういうことなのか。」「それを相手にわかりやすく、順序立てて説明するためにはどうすればいいのだろうか。」、といったことを、資料や根拠をもって説明することに課題が見られます。

■課題③ 情報を正しく処理する能力

設問の中に複数の情報量がある場合、必要な情報とそうでない情報が正しく選択できないために、誤った答えに結びついてしまっている解答が見られました。問題をしっかりと読み取り、表やグラフなどの情報を取捨選択したり、適切に処理したりすることに課題が見られます。

《理科の調査結果に見える本校児童の傾向》

理科は、全国平均を3ポイント下回る結果となりました。主に「知識」に関する問題が、全国平均より6ポイント低いことから、専門用語等の定着に課題が見られました。また、複数の条件や実験結果から答えを導き出すことにも課題が見られる結果となりました。

■課題① 体の部分の名称などの知識・理解

場所や問われていることはわかっているものの、その名称が正しく覚えられていない解答が多く見られました。

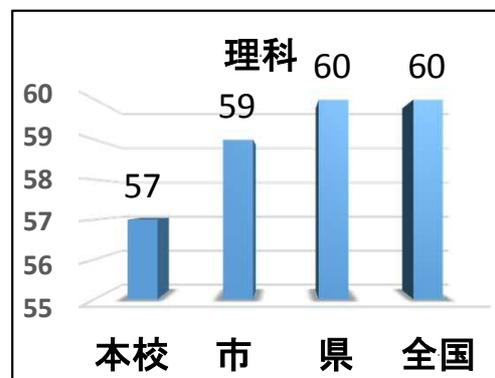
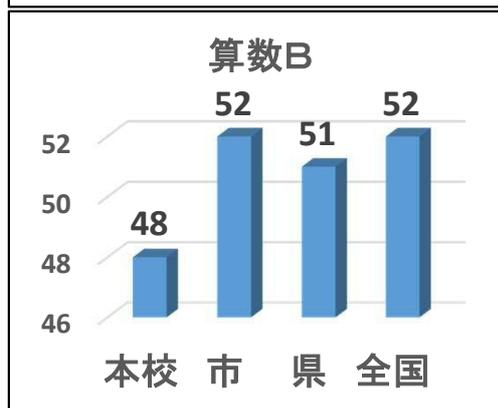
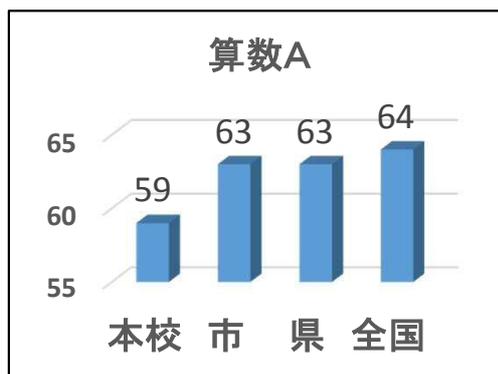
どのようなときに使うのかといった基礎的な内容の定着に課題が見られます。

■課題② 観察・実験結果の活用能力

実験する目的に合わせた条件や、実験結果の表から読み取った事実と、それを根拠としたことを十分に記述することに課題が見られます。

■課題③ 問題内容を適切に読み取り、自分の考えを表現すること

複数のページにわたって実験の結果をもとに答える問題では、途中まで読んだところで判断してしまい、正しく内容が読み取れていないまま、回答を行ってしまっている誤答が多く



児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《自尊感情について》

本校の児童の自己肯定感の高さは、「自分にはよいところがありますか。」の問いに、「当てはまる。」と答えた児童は、全国より12ポイント高いことから伺えます。

ただ、「学校の決まりを守っていますか。」については、「当てはまる。」と答えた児童が非常に少なく、全国平均よりも29ポイント低い結果となっています。

しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」については、「当てはまる。」「どちらかといえば当てはまる。」と答えた児童が98.8ポイントと高いことから、自分の行動を見つめ、より客観的かつ厳しく見つめることができているのではないかと考えています。

《家庭での過ごし方について》

宿題については、「している。」と答えている児童が、全国平均よりも7ポイント高い結果になっています。また、「家で予習・復習をしているか。」についても、全国平均よりも5ポイント高くなっています。このことから、家庭での学習が定着してきていると考えています。さらに、塾などでの学習を含みますが、平日1時間以上学習している児童は、83ポイントと全国平均の66ポイントを大きく上回っています。

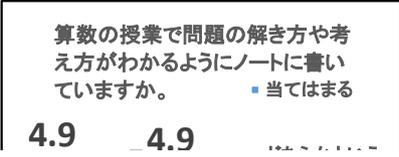
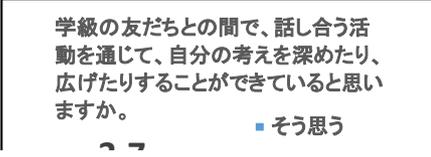
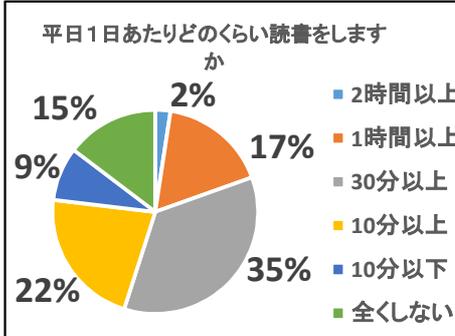
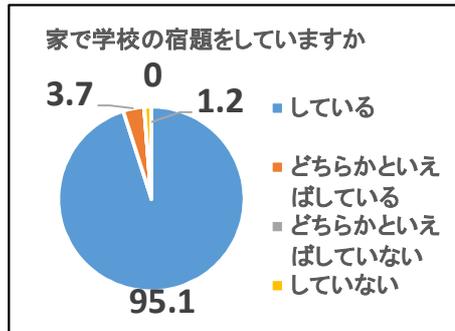
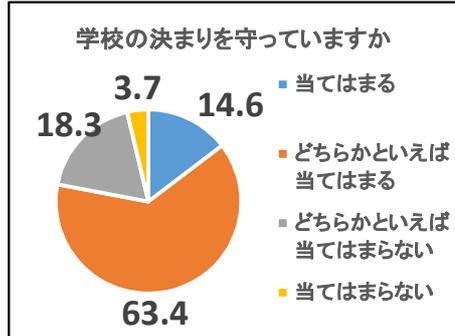
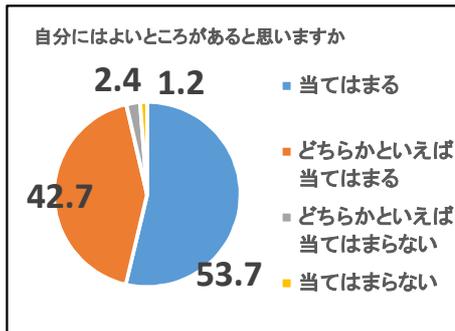
読書については、学級文庫やうち読コーナー、**県立図書館より本をまとめて1年間借りてくる**など、図書室以外の本も充実しており、児童が本を手にする環境作りに努めていることもあり、読書の量としては、全国平均と比べても高い数値を示しているといえます。ただ、読書の時間が、「10分以下。」や「全くしない。」と答えた児童もいて、少なくとも30分以上にしていきたいところです。

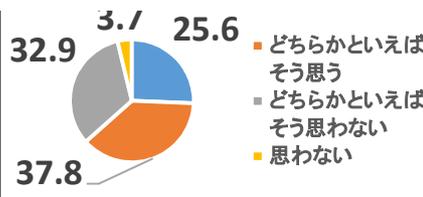
他には、放課後や週末の過ごし方で、テレビ、DVD、ゲーム、インターネットをして過ごすと答えた項目が、どれも80ポイントと、「友だちと遊ぶ。」「家族と過ごす。」よりもポイントが高いところが、少し気になる点ではあります。

《学校での学習について》

算数の授業について見てみると、「算数の授業は好きですか。」の問いには、70%の児童が「どちらかと言えば当てはまる。」「当てはまる。」と答えています。そして、「授業がよくわかるか。」については、90%の児童が、「どちらかと言えば当てはまる。」「当てはまる。」と答えています。これらの結果から、子ども達は、好き嫌いに関係なく、学習内容を理解したという手応えを感じていることがわかります。

ただ、話し合い活動を通じて考えを深め合ったり、理解し合ったりすることは、全国平均よりも肯定的な意見が10ポイント以上差がついています。また、わかりやすくノートにまとめるといったところは、全国平均よりも肯定的な意見が6ポイント程度低い結果になっていることから、「話す・書く」といった部分に課題があるのではないかと考えます。授業の中だけでなく、学校生活の様々な場面で、友だちと関わったり、わかりやすく





調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

《書く活動の充実》

「道徳ノート」、「紀州っ子学びノート」や「算数の振り返り」など、機会をとらえて書く活動を取り入れています。加えて、他教科の授業の中にも積極的に取り入れていきたいと思えます。また、条件を設定し、文章を書くことを増やしていきたいと考えています。具体的には、字数制限を設けたり、項目を決めて、それに見合った意見や感想を書かせたりするなど、いろいろな文体で書くことができる力をつけていけるように取り組んでいきます。

《話し合い活動の更なる充実》

授業中に、みんなの前で発表したり、グループで意見を出し合ったりする時間を設け、できるだけ多くの児童が発言できるように工夫していきます。加えて、取り組みをより深めるために、友達と意見交換したり、付け足しや反対意見を出し合ったりするなど、グループでの話し合いの場面を更に充実させ、考えを深めていく学習を行っていきます。また、話し手の意を汲み取るといった聞く力を身につけることができるように取り組んでいきます。

《知識を活用する力》

読み取りについて課題が見られることから、読書の機会をいっそう多く取り入れます。(休憩時間にも、気軽に本を読める環境づくりをするために、県・市立図書館の一括貸し出しや、高校生読み語りボランティア等を活用した読み聞かせ、うちどくの推進など、読書の時間を多く取り入れていきます。)

決まった形式の問題や漢字など、知識としては獲得していると思われていますが、少し違う視点から出題されたり、他の領域と組み合わせた問題であったり、たくさんの情報から必要なものを取捨選択して解答する問題など、身につけた知識を正しく使うことが課題です。いろいろな形式で解く問題に取り組んだり、他の場面で活かせるような問題に挑戦したりして、幅広く活用できる力が身につくように取り組んでいきます。

《学校と家庭が連携した一層の取組に向けて》

◎毎年配布している「家庭学習の手引き」を参考に、家庭でも学習習慣が身につくようにしましょう。

◎一人一人に応じ学力をつけていくために、毎週月・火曜日を中心に、放課後30分程度フォローアップを行っています。つまづいているところを少しでも早く、少しずつでも分かるようにして、学力向上に結びましょう。

家庭学習の手引き



岡崎小学校